

イノベーション創出を支援

産学官金

日本政策金融公庫

日本政策金融公庫は、シードからレイターまでスタートアップをシームレスに育成支援する取り組みを全国で進めている。その中で横浜中央支店国民生活事業は、半導体の材料や基板の反りを測定するスタートアップ、Cobranchor（コブランカー、横浜市都筑区、高橋篤社長）に横浜信用金庫と協調融資した。2025年10月に設立したばかりのスタートアップは、成長著しい半導体産業の重要なプレーヤーとなる可能性を秘める。

コブランカーは、専門商社で30年以上、半導体の先端分野に携わってきた高橋



コブランカー社長
高橋 篤 氏

氏が創業した。実施する事業は世界初となる、米ニューヨーク州立大学ビンガントン校（ビンガントン大）の装置を使った測定サービスだ。

半導体の材料や基板を開発・製造する際、反りのデータを測定、取得する。このデータがあると、不具合が閾値を超えた場合に材料や構造、作り方をどう変えなければならぬかを正確に把握して修正できる。コブランカーはこれを測定サービスとして事業展開する。今回日本公庫と横浜信

金から調達した資金により、ビンガントン大の測定装置を1台導入。横浜市都筑区のラボにて稼働させ、測定サービスの営業活動を開始した。

ビンガントン大は大手半導体メーカーとの長年の開



コブランカーが導入したビンガントン大の装置。半導体材料などの測定サービスを事業展開。同装置利用手法の業界デファクトスタンダード化を目指す

スタートアップをシームレスに育成

米大の測定装置導入サポート

発の蓄積があり、装置は「30年のアルゴリズムが価値のコア」（高橋社長）。高橋社長は前職でビンガントン大との接点や商取引があり、知識やスキルを十分に備えた人物として認められた。これにより世界で初めて同大学の装置による測定サービスの事業展開が可能となった。

測定サービスは反りを測定するだけにとどまらない。反りが出た材料について「例えば『もうちょっと膨張係数を上げるか』といった弾性値を見ることが

なり、材料そのものの最適化につながる」（同）。測定データとそこから得られた知見は、半導体前工程の設計まで反映できる可能性がある。コブランカーがターゲットにしているのは、こうしたポジションの獲得だ。測定を積み重ね「半導体を作った時に何を信じたら良いのか、モノづくりの前のモノサシから作る」（同）ことまで見据える。高橋社長が計画するの

は、事業の世界展開。台湾や韓国、中国、インド、フィリピンなどにサービスを輸出していく。同時にその過程で装置のメンテナンスのニーズも高まっていく。オペレーションのスキルも展開していく考えだ。

業界デファクトスタンダード化にも積極的に関与していく。ビンガントン大の装置によるコブランカーの測定方法が業界デファクトスタンダード化に成功すれば、半導体の材料やウエハ

コメント

日本政策金融公庫
横浜中央支店支店長

井上 和則 氏

安心と挑戦を支え
共に未来を創る



高橋社長の長年にわたる半導体業界での経験と人脈が

Cobranchorの挑戦を支援する決め手となった。その経験と人脈の裏付けは、高橋社長による熱のこもった事業計画のプレゼン。日本公庫は、今後の成長が期待できると判断して、地域金融機関に協力を依頼して協調融資による支援を実施した。

補完金融を担う日本公庫としては、成長が見込まれる創業企業を地域金融機関と協力しながら今後も支援していきたい。